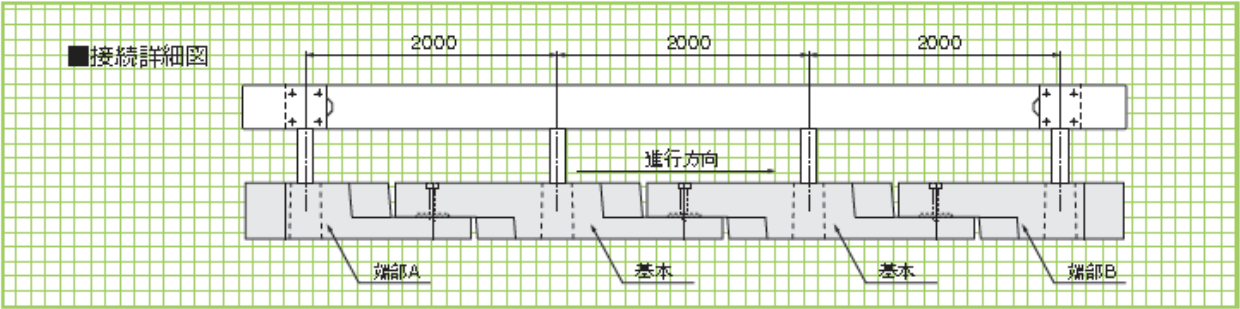


技術概要書（様式）

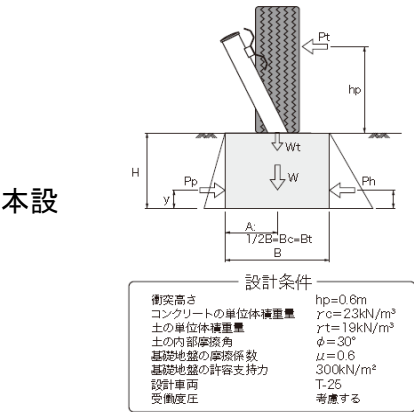
※別紙2

技術分類	☒ 安全・防災 ☐ 維持管理 ☐ 環境 ☐ コスト ☐ ICT ☐ 品質 （該当する分類に○を付けてください）		
技術名称	自在R連続基礎	担当部署	福岡設計技術課
NETIS登録番号	-	担当者	川添 謙一
社名等	インフラテック株式会社	電話番号	092-474-2450
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機 1999 年「車両用防護柵標準仕様・同解説」「道路土工-擁壁工指針」の基準改定に伴い、自動車の衝突荷重を考慮した設計が明記されました。 ガードレール自在R連続基礎ブロックは、道路の安全及び道路環境の改善の為、緊急的に多く施される仮設ガードレールの単独基礎や、防護柵の現場打ち連続基礎をプレキャスト製品化した連続基礎で施工することで、安全性の向上と緊急工事に対応することができます。 さらに、道路工事で必ず発生する交通規制による交通渋滞を、工期の短縮により緩和することで経済効果の改善、工事箇所の安全、さらに、交通渋滞から発生する排気ガスの抑制による二酸化炭素の削減から温暖化防止に少しでも貢献できることを目的として開発いたしました。 2. 技術の内容 1) ガードレール自在R連続基礎ブロックは、土中埋設の防護柵基礎と、地上への置き式の防護柵基礎として、2 種類の使用方法があります。 2) A型は、幅63cm、高さ45cm、B型は、幅40cm、高さ45cmの連続基礎ブロックへの建て込み式です。両種とも支柱の根入れ深さは40cm、連結構造物として衝突時の安定を確保していただきます。 3) カーブ施工は、チェーンをイメージし自在のカーブに対応できます。 4) ボルトにより連結しているため、道路の修繕時に撤去、移設し再利用ができます。 3. 技術の効果 ガードレール連続基礎は、工場製品としての安定した品質、製品をボルトで連結をさせる構造なので、施工性の向上と工期の短縮を実現し、万一の破損時にも破損した部分のみを取り替えることが可能です。 連続基礎とすることで、仮設防護柵に車両が衝突した時、単独基礎と違い凹凸が少ないので、衝撃が少なくなり誘導性と安定性が向上します。 地中埋設施工の連続基礎は、従来から行われている、単独基礎形状より安定性が向上し、現場打ち連続基礎より短い工期で完了します。 4. 技術の適用範囲 本設、置き式ともに安定計算により設計条件に合う規格を選定。（次項：安定計算結果参照） 5. 活用実績 国の機関 106 件（九州 100件 、九州以外 6件 ） 自治体 140 件（九州 112件 、九州以外 28件 ） 民間 20 件（九州 17件 、九州以外 3件 ）		

6. 写真・図・表



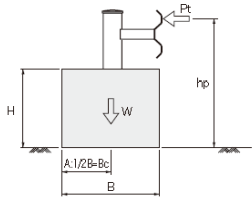
安定計算結果



安定計算結果一覧表(安全率1.5)

衝突条件	衝突荷重	現場打	自在R連続基礎	
			連続基礎	A型 630×450 B型 400×450
A種	55 kN	断面		
		延長	10m	29m
B種	30 kN	断面		
		延長	10m	15m

置き式



自在R連続基礎

衝突条件	衝突荷重	断面	A型 630×450	B型 400×450
A種	55 kN	計算上の必要延長	26m	
		断面		
B種	30 kN	計算上の必要延長	14m	33m
		断面		



写真1 施工現場－本設



写真2 施工現場－置き式